



北九州市立大学
地域創生学群
REGIONAL DEVELOPMENT

地創新聞

VOL.
3.3

北九州市立大学・地域創生学群の情報が掲載！

自分のしたいこと
地域でやらんでいいと？
—まちに飛び込む地域創生学群—



まえがき

この度は、「地創新聞VOL.3.3」を手に取っていただき、ありがとうございます！

本誌は、北九州市立大学 地域創生学群の活動の一環として広報実習が発行したものでです。地域創生学群には12の実習があり、今年度はそれぞれの実習がどのように地域の方々と関わっているのかを取材しました。今回は、地域の皆さんにも参加していただけるイベントに焦点を当てています。この新聞をきっかけに、地域創生学群や地域での取り組みに少しでも興味を持っていただければ幸いです。

3回目の発行となる「地創新聞VOL.3.3」の表紙は、教科書にも載る東田第一高炉跡を取り上げました。全国で初めてできた官営八幡製鉄所は世界文化遺産に登録されており、その一端を担う東田第一高炉跡は近代化産業遺産として、今も八幡を見守っています。この新聞では、北九州市で活躍する学生の活動をお届けしながら、観光スポットも紹介していきます。

今年度も多くの方のご協力のもと、無事に「地創新聞」を発行することができたこと心よりお礼申し上げます。

広報実習

【地域創生学群とは】

地域に関する理論と現場理解により地域社会をマネジメントし、地域の再生と創造に貢献できる人材を育成することを理念とし、総合的な人間力を培い、地域社会のさまざまな分野で指導的役割を担える人材の養成を目指しています。

地域社会というリアルな現場は、企業や行政機関のみならず、市民活動や障がいスポーツ、福祉等の分野において、指導的あるいはコーディネーター的役割を担える能力を養うことに重点を置いています。



地創の詳しい解説は
こちらから

もっと地域創生学群を知りたくなりましたか？
ぜひ左右のQRコードを読み込んでみてください！



地創の基本情報は
こちらから

食を通して関係が生まれる！

＼北九州食スマイル実習／

食を通して人と人がつながる北九州食スマイル実習（以下、北スマ）。学生と地域住民が同じ場に立ち、役割を分かち合いながら支え合う現場には、学びと笑顔があふっていました。

（北九州食スマイル実習とは？）

食と居場所の2本の柱をもとに、誰もが「いつでも帰れる場所」を作る事を目的に、子どもの居場所づくりを中心に活動している実習です。具体的には、北九州市内の複数の子ども食堂・地域食堂において、礼儀やマナーに加え、相手に応じたコミュニケーション力を子どもから高齢者まで多世代と関わりながら実践的に身につけています。

見えない準備が祭りをつくる

11月15日・16日の2日間、北九州市小倉南区にある、企救丘市民センターで開催された「企救丘文化祭」への出店は、地域行事を通して住民との交流を深めることを目的に実施されました。昨年度から継続して行われており、今年度は夏休み頃から準備を開始しました。子ども食堂やほかの活動と並行しながら、ミーティングを重ね、役割分担や運営体制を整えたうえで当日に臨んでいました。

地域とともに食を図む

今回の記事で主に取り上げるのは、企救丘文化祭を通して行われる活動ですが、学生たちは普段から、地域の方々と交流を欠かしません。その交流として、子ども食堂での食事準備や運営、出店活動に取り組み、食を通じて「食の大切さ」や「人のつながり」を伝え、誰もがほっとできる居場所づくりを目指しています。



←実際の販売の様子。
肉まんならぬ「きたすまん」を手渡しながら、地域の方と学生の距離が自然と縮まっています。

文化祭当日は、多くの地域の方でにぎわい、学生のブースでは肉まんの販売が行われました。子どもから高齢者まで幅広い世代の方々が立ち寄り、食をきっかけに自然な会話が生まれていました。学生は声かけや対応を工夫しながら、地域の一員として運営に関わっており、温かな雰囲気に包まれていました。



↑販売ブースの様子



↑実際の「きたすまん」

この実習で身に付くこと！

- ・人と関係を築く力
- ・コミュニケーション能力
- ・現場対応力

Q.文化祭の運営を通して学んだことは？

A. 地域の方と関わる機会が多く、どのような意識で接すれば良い関係を築けるかを常に考えていました。また、地域を支える方々と話し合う中で、実習として何ができるかを考え、判断する場面が多くありました。（企救丘文化祭学生リーダーより）

Q.実習を引き継ぐ1年生に伝えたいことは？

A. 実習全体での確認や共有を大切にし、活動1つ1つが地域の方との信頼につながっていることを意識してほしいです。その上で、新体制ならではの「北九州食スマイル実習」に挑戦してほしいです。
(北スマ学生リーダーより)

各種地創の情報はこちらから



北スマの学び
を詳しく
発信中！



北スマの情報
をリアルタイム
で発信中！

目印は赤いTシャツ！街の案内人

＼小倉活性化プロジェクト実習／

今回は、小倉活性化プロジェクト実習の一環で活動するまちなかコンシェルジュ隊（以下、まちコン）を取材しました。街を歩きながら来訪者の困りごとに寄り添い、案内や相談に応じて、小倉の魅力を伝える活動です。では、まちコンについて詳しく紹介します。

（小倉活性化プロジェクト実習とは？）

小倉活性化プロジェクト実習は、「小倉に来たいと思ってもらえるまちづくり」を目指す実習です。学生は、greenbird・Kokulike・idea+のグループのいずれかに所属し、活動しています。さらに、街中を案内するまちなかコンシェルジュ隊や、小倉で活躍する方を講師に迎え、講座を行う夜会を通し、来訪者や地域の人に小倉の魅力を届けています。

歩くたびテーマが変わる まちの学び

毎月第1・第3土曜日に行われるまちコン当日には、実習生が小倉を知るため、毎回異なるミッションが設定されていました。取材では行列店の調査やAED設置場所の確認などを行い、探索範囲は決まっているものの、移動経路は学生に委ねられていました。学生の視点でまちの魅力や情報を集める点が特徴で、探索以外の時間には委託販売やイベント補助など、状況に応じて柔軟に活動していました。

学生の目で見つけた "小倉の名品"

まちコンの拠点では、Kokulikeが見つけて取材したお店の商品を委託販売しています。学生が街歩きで出会った「気になるお店」を来訪者に届けられる点が特徴です。また、greenbirdが活動で出会った小倉のお店をノートで紹介しており、足を運んだからこそ気づいた魅力が、学生の視点で綴られた唯一無二の観光冊子になっていました。



←まちコンの拠点に実際に置かれているお店紹介ノートです。手書きの文字や構成から、ページごとに学生の個性が出てきます。1冊のみで、拠点限定のノートです。

まちコンでは、お昼ご飯をチェーン店以外の"地元のお店"から自分たちで探して食べるというルールがあります。街を歩きながらお店を開拓することで、小倉の魅力を体験的に学べるのが特徴です。回を重ねるほど行きつけが増え、お店との交流が生まれることもあり、日々の発見が案内活動にも活かされています。



↑お店を探している様子



↑実際に食べた「東京庵」
おすすめのかつ丼

この実習で身に付くこと！

- ・現場で課題を見つける地域観察力
- ・地域の人と協働する関係構築力
- ・街を資源として活用する想像力

Q.まちコンの一環として参加した小倉城竹あかりのお手伝いで感じたことは？

A. 学生だけでなく社会人や幅広い年代の方がボランティアに参加し、地域が一体となって作る温かいイベントだと実感しました。多様な立場の人と協働でき、実習として貴重な経験になりました。

Q.まちコンで心に残った出会いや出来事は？

A. 委託販売で声をかけた際、活動に关心を寄せた方が商品を購入し、後日お店にも足を運んでくださいました。お店と来訪者をつなげる役割を果たせ、まちコンの意義を実感できた瞬間でした。

(小倉活性化プロジェクト実習の学生より)

各種地創の情報はこちらから



他の詳しい
活動内容は
こちらから！



小倉活性化プロ
ジェクトの活動を発信
中！

スポーツを通じた多世代交流！

＼コミュニティスポーツ実習／

地域創生学群12実習の中で運動量ナンバーワン！？地域の方々と連携しながら、地域×スポーツで地域を盛り上げるイベントを開催するとともに、ウォーキングを通じて地域と関わり、多世代交流を目指すコミュニティスポーツ実習について紹介します！

（コミュニティスポーツ実習とは？）

「北九州ウォーキング協会」・「北九州市レクリエーション協会」などの地域の団体と連携しながら、学生ならではの視点を活かし、新たなスポーツの価値を提供することによって地域活性化を目指しています。北九州市が推進する「生涯スポーツ社会」に寄与し、より強固なコミュニティづくりを目標に活動しています。

ウォーキングによる発見

「歩育」を目的とした健康ウォークは参加者の健康寿命の促進と多世代交流を深める場となっています。五感を使って自分の目線で歩くことで、車では気づかない地域の危険な場所や魅力に気づくことができます。また、「歩くのがきつい時にそれを乗り越えるメンタル」や「忍耐力」が身につくと同時に、参加者間のコミュニケーションによって、新たな繋がりや関係を生み出すきっかけとしての役割も担っています。

学生主体のイベントも！？

コミュニティスポーツ実習はウォーキングだけではなく、球技などのスポーツを活用したイベントも行っています。野球やサッカーなどを誰でも参加しやすいゲーム形式にして参加者の興味を惹いていました。スポーツ経験がない人でもイベントを楽しめるように、学生が工夫しながら、地域の方々と交流を深めています。



←レクリエーション協会主催のレク祭りにて、学生が親子連れとゲームをしている様子です。学生も一緒に交流を楽しんでいました。

7月6日にスタンプラリー ウォークが北九州市八幡西区黒崎にて開催されました。学生は和気あいあいとした雰囲気を作りながらも、学生は危険が想定される場所に立ち、参加者が安全に活動できるよう行動したり、休憩時間に声をかけたりするなど、学生としてできる工夫を率先して行っていました。



↑学生が前で体操係！

この実習で身に付くこと！

- ・臨機応変な対応力
- ・タスク管理能力
- ・リスクマネジメント能力

Q. 当日はどのような学びがありましたか？

A. スタンプラリーウォークは学生主催のため、イベントの全責任を負う重圧の中、真夏の暑さによる事故の危険性と向き合いながら、綿密なリスクマネジメントを講じる必要がありました。特に、安全性を確保しつつ目的を果たすコース設計には苦労しました。ですが、この活動によって困難な状況を乗り越えるため、タスクの効率的な振り分け方を学び、予期せぬトラブルに冷静に対応する臨機応変な行動力と、組織を率いる責任感が身につきました。

(コミュニティスポーツ実習の学生より)

各種地創の情報はこちらから



コミュニティ
スポーツ実習
の学びを詳
く発信中！



実習の
最新情報を
発信中！